

## 2022 年度日本農業経済学会第 3 回常務理事会 議事録

開催日時:2022 年 12 月 17 日(土)13:00~14:50

会 場:リモート開催

出席者:浅見会長, 茂野総務担当副会長, 斎藤編集担当副会長, 伊藤企画担当副会長, 矢部国際担当副会長, 鈴村会長補佐常務理事, 小野総務担当常務理事, 河野学会賞・国内学術交流担当常務理事, 秋山財務担当常務理事, 図司財務(引継)担当常務理事, 八木情報担当常務理事, 作山和文誌編集担当常務理事, 中谷英文誌担当常務理事, 東山企画担当常務理事, 佐々木国際担当常務理事, 加治佐開催校担当常務理事, 吉岡常務理事(北海道), 石塚常務理事(東北), 増田常務理事(近畿), 山口常務理事(中国), 松岡常務理事(四国)

欠席者:下川企画担当常務理事, 槙平常務理事(中部), 堀田常務理事(北陸), 坂井常務理事(九州)

### 1. 会長挨拶

大会準備等、引き続きお願いする。

### 2. 2023 年度青山学院大学大会について(企画) 【報告, 審議】 資料 2

#### 2-1. 2023 年度青山学院大学大会の持ち方について

加治佐:前回常務理事会以降の進捗

9 月に HP 公開、国内外の各種学会の ML を通じて大会の連絡

講演者については、一部未定だが、ほぼ出揃った

後援についても順調

個別報告最終締め切り: 総件数 294 英語個別 209、日本語個別 62 など大幅増

参加者が増えて資金的には安堵だが、会場確保を今後

12 月 23 日に参加登録開始

名譽会員は参加費のみ無料、カンファレンスディナーは有料(約 1 万円だが確定は後日)

エクスカーションは未定

浅見:日本農経のシンポジウムの日本語表記と英語表記のすりあわせ

東山:確認する

鈴村:参加費内訳についてはできるだけ参加エントリー開始時点までに HP に明記するのが望ましい

加治佐:そうしたいが時間的に厳しい可能性が高い。その場合、登録開始時までには概算で明示する方法を検討したい

東山:諸会議の時間帯を設置、利用のほどを

鈴村:理事会は大会の 1 週間前に設定している、緊急の案件があれば大会中に使うこともあり得なくはないが、現時点では予定はない。

(後日) 東山:18 日 17:30 ~ 18:30 の諸会議の時間は個別報告に充当したい(報告数増への対応)

#### 2-2. 2024 年度東北大学大会について

伊藤:2024 年 3 月 30 (100 周年記念大会シンポ)、31 日 (個別報告)

シンポは 500 名程度を想定 会場については仮押さえ

## 2-3. その他

伊藤：日本大学が順番校、日本大学藤沢キャンパスで開催

### 3. 各担当の業務について

#### 3-1. 総務 【報告, 審議】 資料 3-1

##### 3-1-1. 情報 【審議, 報告】 資料 3-1-1

###### 農業集落調査について

茂野：第2回常務理事会で審議済みであるが、経緯を資料に基づき説明

会員からの要望、執行部で要望書作成、農林水産大臣に提出

農林水産省より経緯及び代替案について説明

→他学会への説明では、項目、対象の拡大などさらなる歩み寄り

センサス研究会の資料はHPで確認可能

浅見：今後の経過を見守りたい

日本学術会議からの会員・連携会員選考

茂野：コ・オブテーション方式（現会員が次期の会員を推薦）で進めてきたが、別途学術協力団体に対しても情報提供の要請

学会としては現会員に対応を一任

過去の役員に2016, 2019年当時の記録を調べてもらったが「記録・記憶なし」

会員の推薦について、内閣府は方法変更を検討中、ゆえに今回は提供を見送りたい

###### 倫理規程の細則

茂野：前・現総務担当副会長、会長補佐、総務担当常務理事等をメンバーとする小委員会を年度内に立ち上げ

#### 3-1-2. 財務(情報) 【報告】

八木：座長改題のJ-stageへの掲載

図司：今年度の執行は順調

大会に関連し予算がイレギュラー（農経学会とアジア農経学会のミシン目の関係）、次年度に引き継ぐ

#### 3-1-3. 学会賞・国内学術交流 【報告】 資料 3-1-3

###### 学会賞

河野：資料に基づき説明

事務局：奨励賞に1件応募、1月から選考委員会を設置

河野：応募があったため、期間延長はしない

日本農経の表彰式のアジア農経での実施如何

鈴村：表彰式は実施する方向で検討はしていたと思う。Closingの中で行うのに違和感があるなら、日本農経のplenary sessionの近傍で表彰式をするのはどうか

加治佐：19日のclosing ceremonyでアジア農経の英語発表の表彰をする

伊藤：日本農経のplenary session（19日9:00～11:00）の後に休憩10分、うち5分で表彰式を実施はどうか

中谷：中日の日程は、個別報告の件数が予想以上に集まった関係でタイトになる可能性がある。アジア農経の表彰と日本農経の表彰という形で分ければ問題ないと思われるの、closingで実施したらどうか

河野：中谷案の方向で、詳細はプログラム編成担当に一任

国内学術交流

河野：関連学会協議会、今年はオンライン開催

仙台大会の編集委員長会議については後刻検討

日本農学会運営委員会・日本経済学会連合

茂野：農学進歩賞については推薦したが受賞ならず

河野：資料に基づき報告

### 3-2. 編集(和文誌、英文誌) 【報告】 資料 3-2-1、3-2-2、3-2-3

作山：投稿状況、審査・採択状況について資料に基づき説明

報告論文については2022年度の採択率が46%、採択数が17と減少傾向に歯止めかからず

3年間途絶えていた研究動向、2022年度12月号から随時掲載

中谷：英文はArticleもResearch Lettersも投稿数が減少

理由：英語で報告した後、他の英文誌へ投稿する傾向あり

アジア農経の英語報告では農経学会非会員でもResearch Lettersへの投稿を可能とする

齋藤：論文採択率は、英文＜和文、の傾向、審査基準に差があるか否かについて、却下論文の査読結果を審査し、結果としては問題ナシと判断。（会員から、第三のレフェリーについての意見をうけ）報告論文では速報性を重視し、第三のレフリーは立てていない

### 3-3. 国際 【報告】

矢部：韓国との国際交流は延期、現在先方に問い合わせ中

### 3-4. 連携 【報告】

浅見：特段なし

### 3-5. その他

理事の交代について

鈴村：鈴村、作山・中谷、加治佐、岡司先生が退任

浅見：次年度は京都大学三浦憲先生が総務担当常務理事に推薦される予定

## 4. 規程類の改正について(資料) 【審議】

### 4-1. 学会賞の選考結果報告・承認手続に関する規程変更 資料 4-1

鈴村：学会賞の選考結果は、「常務理事会」に諮るとあるが、これを「理事会が大会1週間以上前に開催される場合には理事会」に諮る、と改正する

実際には、2021年度は大会前の3月の常務理事会は開催していない

### 4-2. 和文誌編集担当常務理事、英文誌編集担当常務理事の任期について 資料 4-2

齋藤：報告論文編集作業において、細則と実態の不整合（任期を終えた編集委員長が、報告論文の第1回審査を担当）が発生

引き継ぎを考慮すると、和文誌、英文誌委員長の同時期交代は芳しくない

よって、次期の編集委員長はいずれかが任期3年とする方向で検討を進めたい。具体的に  
もう少し時間かけて問題点を整理し、次年度の理事会での承認を目指していきたい。

## 5. その他

なし

閉会